

令和4年度第2回江南市廃棄物減量等推進協議会特別委員会 会議録(概要)

●日時 令和4年11月16日(水) 午後1時50分～午後3時25分

●場所 江南防災センター 防災セミナー室

●出席委員(9名)

| | | | |
|-----|-------|----|-------|
| 委員長 | 石井 進 | 委員 | 森田 英守 |
| 委員 | 安藤 晴通 | 委員 | 伊藤 克 |
| 委員 | 幸村 満 | 委員 | 森 ケイ子 |
| 委員 | 黒岩 弘子 | 委員 | 高木 則雄 |
| 委員 | 松浦 大介 | | |

●事務局

| | | |
|-----|----|---------|
| 環境課 | 課長 | 相 京 政 樹 |
| 環境課 | 主幹 | 前 田 茂 貴 |
| 環境課 | 主任 | 米 嵩 浩 之 |
| 環境課 | 主事 | 高 田 奈 美 |

●会議経過

開 会

●事務局

廃棄物減量等推進協議会特別委員会を開催いたしましたところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

若干定刻より早いですが、お揃いでいらっしゃいますので、ただいまより、会議を開催させていただきます。

それでは、委員長、よろしくお願いいたします。

●委員長

皆様、こんにちは。

本日は、令和4年度第2回江南市廃棄物減量等推進協議会特別委員会を開催しましたところ、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の会議も対面方式とさせていただいておりまして、会議は1時間半までを目安にしたいと考えていますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

それでは早速議題に入りたいと思います。議題1のごみ収集体制に関するアンケート結果について、事務局より説明をお願いします。

<事務局説明>

●委員長

もともとは、立ち当番等について市民の方からの不満が多いことや、他市町でやっているように、資源ごみも可燃ごみと同じくルート回収した方がいいのではないかという意見を受けて、回収方法の見直し案を事務局が作り、江南市全域の区長・町総代にアンケート調査をしました。アンケートの内容としては、立ち当番の負担を、地域の方ではどう考えているのかということ、資源ごみの一部を可燃ごみと同じような回収方法にした場合の対応に関する事などです。さきほどの事務局からの説明で、見直し案について、どちらかといえば賛成が28.2%、見直しの方向性は賛成が36.8%で、見直し案のまま進めてほしいという意見はそこまで多くなかったということです。全体としては、回収方法を見直すという方向性はいいけれど、今すぐ見直し案に変更してほしいという希望がそれほど多くなかったという問題があります。事務局としては、立ち当番の負担をどうやって軽減するのかということもありますし、地域ごとに、立ち当番などの方針がかなり違っておられますので、それに対応していきたいというような意見もありました。

この資料については、皆さん事前に見ておられると思いますので、本日までご出席の委員の皆さまに、お1人ずつ意見を伺いたいと思います。

●委員

もともとご提案いただいていた内容と、先ほどの事務局の提案の内容が大きく違いますので、ちょっと驚いたんですけれど、市がパトロールを実施するので、立ち当番はなしでいいということでもよろしかったですか。

そうすると私の地域では、今までは、立ち当番の人で一番早い時間の方が業者の配送した容器を所定の場所に設置して、それ以降はその容器に皆さんが資源ごみを出していましたが、集積場所に配送された容器を設置することもやらなくていいという解釈でよろしいですか。

●事務局

立ち当番を実施している地域について、朝の資源ごみ収集容器の設置は、立ち当番の方がやっているところが多いという理解です。立ち当番を実施しないということになっても、パトロールの人が容器設置をするということではなく、容器設置は、なんとか地域のほうでやっていただくようお願いしたいと考えています。

●委員

そうすると、設置だけを各町内でやればよく、市がパトロールをやるため、地域で、立会いはしなくていいということではありますが、江南市は立ち当番をしなくていいとまでは言わないということですね。

●委員

ちょっと私もびっくりしました。立ち当番をなくすということに対しては、確かに地域の人の負担は減りますが、資源ごみを間違えて入れた時に指摘をするのは立ち当番の人がするわけですね。指摘するのは結構嫌なことだと思います。嫌なことですけども、その地域に住んでいる人っていうのは顔見知りだから、嫌なことでも言いやすいと思います。分別が違っていたら、それは注意していいと思います。知らない地域の方がパトロールしてもきっと注意できないです。違う地域の人というのは、他の地域の人とは誰か分からないし、そういう人になかなか注意ができないと思いますので、厳しいかなと思います。

あともう一つは、町内の人準備して、資源ごみの回収をしてもらった後、たぶん掃除をしなくてはいけないですね。掃除しなくてはいけないので、終わってから地域の人が出ていく必要がありますよね。だから、そういうことを考えると、立ち当番をなくしてしまうというのはどうかと私は思っています。

私の地域としても、市のものとは少し内容が異なりますが、町総代にアンケートを取りました。そうすると、見直し案については賛成と反対の割合が大体半々でした。あと、分からないという回答も、いくつかありました。町総代になっている方というのは、昔から住んでいる人たちが割と多いですが、今は、私の地域の場合も新しい住宅が建ち、新しく住み始めた人と古くから代々住んでいる人がほぼ半々です。そうしますと、新しく住み始めた人や子育てをしている人たちの家が半分くらいありますので、そういう人たちのところは、今回の見直し案は便利になると思います。半々ということは、実際、そういう人たちが多くなっているんで、むしろ当初の案に関しては、賛成の方になってきたんです。

最初は、立ち当番なんて年に1回か2回しかないから、そんなに大きな負担はないと思っていました。しかし、3つほどの地域では、町総代になると全部出ていく必要があるところがありました。そうすると年に24回、全部自分で準備と片付けをやらなければならないので、今回の見直しは、この人たちには非常に便利です。また、ある町内では、資源ごみ集積場所が町総代の家の前になるというところがあります。この地域に新しく来た方で、自分の家の前にはごみを置きたくないということもあり、新しい集積場所を設ける提案もしましたが、他の方たちから反対を受け、町内会から抜けたという事例もあります。もし、もっと早くこういう体制があったら、その人は町内会から抜けなくてもよかったかもしれないと思うと、当初の提案に関しては、私としては賛成です。

●委員

アンケートの中で、多くの方が間違った分別の対応や、立ち当番がないことにより分別が乱れることが困るという懸念をされていました。市でパトロールするから立ち当番をなくす、

というようなことを聞きましたが、結局、パトロールもずっといるわけではないので、例えば30分に1回とかそういう形で順次回られますよね。その30分の中に分別が乱れると思います。それを業者が後から整理して、回収はしてもらえるのか。そこが気になりました。それをしっかりやりますよ、ということであれば大賛成です。

●委員

私は当初の見直し案には反対です。この案を実施すると、どのようなことが起きるか、みなさん分かっていないのではないかと思います。他の自治体を調査することも大切だと思います。私の知り合いが一宮市に住んでいるため、話を聞きました。その方の話では、月に1回しか出すことができないものがあるため、多くの方がリサイクルステーションにごみを捨てに行っているとのことでした。これは大変由々しき問題で、最終的には月1回の資源ごみ収集にしたことにより、大混乱します。今回のアンケート結果でも、仮に、資源ごみ収集を月1回にしたらどうなるかという推測での回答であり、実際にやってみてというわけではありません。プラスチック製容器包装類と廃プラの分別が似ているため、仮に、プラスチック製容器包装類が可燃ごみ置場で週1回の収集になってしまうと、資源ごみ集積場所にプラスチック製容器包装類を入れる容器がなくなります。そうすると、資源ごみ集積場所で必要に応じてプラスチック製容器包装類と廃プラの分別ができなくなります。

また、一宮市では、社会福祉協議会で土日の資源ごみ収集拠点を開設しているそうです。開設するにあたって費用もかかっていますし、利用者も多いです。資源ごみ収集の種類によっては月1回の収集にしたことを一宮市は後悔していると思います。月2回の収集に戻したくても戻せないのだと思います。もし、江南市も資源ごみ収集を月1回にしたら、江南市もいずれそうなると思います。

私の地域の資源ごみ収集のやり方を、先日、別の地域の方が見学にいらっしゃいました。見学して、その方の地域の問題が解決したと言って帰られました。立ち当番のやり方が大切で、私の地域のやり方だったら、ほとんど立ち当番は必要ありません。収集体制が変わって、資源ごみ収集場所でプラスチック製容器包装類と廃プラの分別ができなくなるのであれば、立ち当番が私の地域ではなくなるかもしれません。そういったやり方を目指すのが本当だと思います。

それから、小牧市は収集体制がちょっと違います。小牧市は、資源ごみの収集が基本月2回で、さらにプラスチック類の収集が週1回で、さらに便利になっています。もっとよくしたいということでしょうね。

●委員

アンケートの結果を見て、やっぱり自分の地域と、他の地域でこんなに違うことがあるんだ

など思ったことがいくつかあります。それは、先ほどの区長さんからもありましたが、可燃ごみ置場が非常に狭く、掃除もしているため、週4回になると大変だということです。私の地域は、可燃ごみはダストシュートを使用していて、掃除をするというようなことはないため、当初の見直し案になると、ペットボトルとプラスチック製容器包装類が増えるだけだという認識でした。しかし、他の地域では、もし、この見直し案になった場合、解決しなければならない問題がたくさんあるということをアンケート結果を見て感じました。

それと、実際にこの見直し案で進めていこうとすると、分別の精度が悪くなるということは間違いなくと思います。今の体制であれば、立ち当番がいて、ごみを出しに来た人に対して、分別が違おうであれば指導ができます。特に、プラスチック製容器包装類は、家で分別して持ってきていても、その袋から出すと、廃プラが混ざっていることがよくあります。見直し案になると、そういった分別指導ができないので、そこの対応をしっかりとやらないといけないのではないかと感じていました。

しかし、こういった意見を聞くまでもなく、新しく事務局案が出てきたため、戸惑いました。今回の事務局の提案でいうと、今の体制のままだけど、回収容器を出すことは、自分たちでやらないといけないから、必ず誰かが資源ごみの日に立ち当番として出る必要があると思います。私の地域だと、一回の収集で10箇所ほど資源ごみ集積場所があり、結局、それぞれの場所で、当番の人が並べる必要があります。今回の事務局案について、委員もいることだし、いろいろ議論をしたほうがいいのではないのでしょうか。アンケート結果にもあった皆さんの積極的な意見を取り入れて、今後どのようにしたらよいか、ということを考えていく必要があると思います。ご意見の中で、剪定枝・草の収集が、月1回では、可燃ごみとして捨てられるのではないかと心配の声もありましたし、市の指定ごみ袋が今後3種類になると、分別を間違えて出す人がいるのではないかと声もありました。積極的な意見としては、リサイクルステーションを増設し、いつでも出せるようにしたほうがよい、可燃ごみの回収ボックスを置いた方がよい、などいろんな意見があって、なるほどと思いました。自分の地域だけをみて考えていたら分からない意見がたくさんあったので、そういうものを参考にしながら、議論を深めていった方がいいのではないかと思います。

●委員

私の地域には、資源ごみ集積場所が2か所あり、立ち当番については、年度替わりの時に地域の役員が決めています。毎年、日程表を配布されていますが、世帯がかなり増えていまして、数年に1度しか回ってきません。また、新しく家を建てた人は、初めて資源ごみを捨てに行ったときに、何をどこに捨てていいかわからないため、立ち当番の人たちが捨てる場所なども教えています。立ち当番の中には、以前から分別指導をしてくださっている方もいて、さらに班から1名ずつ、約10人で当番をしています。みんな教えてもらったとおりにごみを捨てている

ので、混乱なく資源ごみを出すことができます。私自身、これまでに5~6回くらい立ち当番をした経験がありますが、当番の最後の時間の人は朝8時半までいて、掃除もやっています。もし、立ち当番がいなかったら、ごみの分別もあまりされない状態で捨てる人もいるでしょうし、もう1回分別をしなければならぬため、収集業者の方たちは大変になるのではないかと、思いました。

●委員

ちょっときつい意見かもしれませんが、今回の事務局案の立ち当番をなしにできるというのは、詭弁だと思います。なぜかという、カゴを並べるだけでいいとはいうものの、結局、地域の人たちが立ち会いに来る必要があることに変わりはないからです。

最初に並べたカゴが満杯になったとき、次のカゴの用意はどうするのか、ということです。カゴの交換を地域の人でやるということなら、立ち当番は必要になるので、事務局の説明にあったような、立ち当番が不要というわけにはいかないです。私の地域では、資源ごみの種類によっては、カゴがいっぱいになると、そのカゴの上に空の容器を乗せています。廃プラのカゴだけでも20~30個程度あります。プラスチック製容器包装類も30個ほど必要ですので、それを一段に全部並べることができる場所がありません。剪定枝・草についても、少ない季節でも7袋程、秋ごろは10袋以上になると思います。袋の口を締めて、次の袋の準備をどうするのかということになると、やはり地域でやるということになってくるので、地域の立ち当番はなくなると思います。

事務局の新たな提案では、今まで通りということになると思います。分別が悪くなれば、当然必要経費が増え、負担が多くなり、税金が増えるような事態にもなってくるのではないかと思います。自分のごみを捨てるにしても、自己負担はしたくないから、税金を使えばいいという意見もあります。税金は使ったら使った分だけ枯渇し、自分たちへ返ってきますので、税金というのは有効活用していただきたいです。

●委員

アンケート結果をみて、立ち当番を実施しているか、立ち当番をやめたい人からの相談を受けたことがあるか、といった質問に対し、割合で見ると、回答が半々だったので、実際の現場にもいろいろな状況があるというのが印象です。自分の持っていたイメージは、もしかして偏っていたのではないかと、思いました。現場ごとにいろいろな問題や悩みがある中、事務局が地域の資源ごみ収集の見直し案を提案し、アンケートをとったということです。アンケートの回答の1つに、アンケートの目的が不明といった意見もありました。事務局としては、全体で考えたときの効率化などを考えたうえで、最善と思って提案したものが、それぞれの現場にあてはめていくと、どうしてもずれが出てきてしまうんですね。

アンケートの回答でも、それぞれの地域から、困りごとや、新しい提案、問題点などが出てきて、頭ごなしに見直し案でやるのは難しい話なんだと思います。そもそもの問題が何かということをおもんに問いただして、みんなですれをまず共有するということが先決という気がします。事務局や、トップダウンの形で、みんなここが困っているという形にするのではなく、各現場での困りごとを拾って見て、それをみんなですれして議論を始めた方がいいのかなという気がします。

アンケートの回答には、問題点をみんなですれしたいという意見もありました。例えば、立ち当番について、自分の地域では問題になっていないというところもあるようで、そういった地域からしたら、今回の見直し案というのは、なぜ提案されたのか分からないということになりかねないと思いました。立ち当番が問題になっていないという地域に対しても、他の地域では問題になっているというところもあるので、一緒に考えてくれないかという持ちかけをすれば、何か擦り合わせたような回答が出るかもしれません。毎回は、この問題は、いろいろな人がいて、いろいろな場面があつて難しいと思わされるのですが、それだけにみんなを巻きこんで、問題を共有するところから始めたほうがいいんじゃないかという気がしました。

●委員長

意見がいろいろありましたが、これまでの流れからいきますと、事務局には、立ち当番の負担の多さや、他市町のような袋収集をやっていないことについて、いろいろな意見が持ち込まれていると思います。

私が思うに、立ち当番についても、みなさんが本当にリサイクルの意識が高く、それぞれ分別していくことができるということであれば、なくしてもいいですが、そこまでは現実問題として難しいです。

事務局が各地域に周知をしても、そこまで徹底するのは、世帯が多いところでは難しいと思います。立ち当番をなくすということも現状では困難ですし、分別などについても周知する努力をしないではいけません。ただ、立ち当番の負担は大きいという意見もありますので、悩ましいところです。

●事務局

いろいろなお意見をいただきましたが、江南市の分別の歴史というところの観点から振り返りますと、愛知県の中でも先進的に分別区分を増やし、分別を徹底していこうという意識の高さがありました。そういったことから、今の収集体制となり、地域で立ち当番を行い、徹底的に分別の質を高めるという意識で20年ほど続けてきましたが、近年は、高齢化や共働きといった問題があるために、この立ち当番の負担が増えてきているという状況に至っています。

こういう経過の中で、分別の質を高めたまま、立ち当番の負担を軽減することができないか

という視点で考えようとしているわけですが、両立させることは厳しいというのは、委員の皆さんにもご理解いただいているところだと思います。

とりあえず、ごみ分別の精度のことは置いておいて、まず、立ち当番の負担を軽減する方向を前提として今回はアンケートを実施しました。今回の当初見直し案は、立ち当番の負担を軽減させるために、資源ごみの収集を月2回から1回にするという案で、また可燃ごみ置場を活用して、一部の資源ごみを袋収集するというものでした。アンケート結果では、可燃ごみ置場で一部の資源ごみを袋収集にした場合、可燃ごみ置場の問題が大きく出たであろうという意見が多くありました。この見直し案に賛成と回答した方の中には、デメリットに気付いていない方もいらっしゃるのではないかと思います。

事務局としては、デメリットの方にも目を向ける必要があつて、改善できるようであれば、改善しながら見直しを模索しようと思っております。事務局の先ほどの説明では、言葉足らずだった部分がありまして、立ち当番を一気になしにするのではなく、当番制をスリム化するところからお願いできないかと考えました。

今まで、分別を徹底するという意識を持ち、市もそれを啓発してきて、地域の方にも協力してもらってやってきたんですけども、いったん地域の立ち当番の負担を考えて、まずは、最小限の当番制度という形を、各地域で検討していただけないかということをお願いしてみようという方向性でどうかというのが、今回の会議で説明した案になります。立ち当番自体、全くなしでやっているところもあつて、うまくいっている地域もあります。それはやはり、ごみを出す方の意識が高い人たちの集まっている地区だと思います。これまで立ち当番をやっていた地域では、指導する人がいなくなれば精度が悪くなるのは当然で、全くなしでもいけないので、そこをフォローするために、パトロールを市の方で行うという方向性はどうかという案です。

●委員長

とりあえず、資源ごみの一部を可燃ごみ置場で回収するという案は保留するということと、立ち当番については、事務局に苦情が出ている状況もありながら、月2回の現状のままとりあえず進めることだと思いますが、立ち当番の負担について、事務局の方で、パトロールで支援ができるかといった検討をするということですよ。

●事務局

付け加えますと、例えば、今の状態で立ち当番をスリム化して行って、助言する人がいない中でも、分別の精度が高まるようであれば、そのまま袋収集にもスムーズに移行できる話だと思います。そういう方向性で移行してはどうかと思っています。

●委員

可燃ごみ置場が家のすぐ近くにあって、可燃ごみ以外のものを置くのが非常に難しいという場所がどのくらいあるのでしょうか。ペットボトルだと、1回のごみ出しでもかなりの量になります。

アンケートを読んでいて、そういったご意見がかなりあったこと、また、可燃ごみ収集の後、掃除をしている地域があるようです。市全体で、130以上の地区があり、その中でどのくらいの地区がそうなっているのか、きちんと把握しておかないと見直し案は実施できないと思います。場所の移動や、ボックスの設置などの労力が必要な地域がどのくらいあると考えていますか。

●委員長

可燃ごみ置場は、10世帯くらいで使用していますね。カラス除けネットの貸出しは12～13世帯で1枚でしたか。

●事務局

可燃ごみは週2回収集ですが、ペットボトルは現状月2回の収集で、それを週1回にすることなので、1回の量としては分散します。

●委員

1回の量は減りますね。

●事務局

他市町の事例をみても、ペットボトルが多いのは事実ですけれども、それを週1回出せることになれば、可燃ごみ置場に出すことができる量だと思います。

先日、ある地域の資源ごみ集積場所と可燃ごみ置場の見学に行きましたが、可燃ごみ置場については、ボックスが設置してありました。感覚的なところなので、もしかしたら違うかもしれませんが、週1回の回収であれば、プラスチック製容器包装類にしてもペットボトルにしても、そのボックスの中に入るように見えました。

●委員

シートなど上から被せるものであればよいですが、私の地域の場合は、ごみ置場に箱を設置しました。ペットボトルなどは、かさばりますが、可燃ごみであれば、押せば入ります。ペットボトルはたぶん入りきらないと思います。予測がつかいませんし、箱を作り直すといっても分担金で箱を作ったばかりですので、移行する段階では相当な問題になると思います。

●事務局

地域によっては、道路の幅が狭い箇所もあるので、そういう場所は不安があります。勝手なイメージではありますが、量的にはちょうど一緒ぐらいでいけると思います。しかしながら、各地域では、可燃ごみ置場の当番というものもあります。その当番の負担が増えるだろうというのがこのアンケート結果ですし、逆の問題が発生するのではないかということ是否めません。

●委員長

もしも、みなさんがペットボトルとプラスチック製容器包装類をきれいな状態に出していただけなのであれば、量もそこまで多くないでしょうし、臭いの苦情やカラスや猫といった動物の被害もないということは想定されます。他市町で、すでにペットボトルとプラスチック製容器包装類を可燃ごみ置場で袋収集していて、あまりそういう問題がないのであれば、できると思います。

●事務局

ただ、分別がしっかりできる保証はありません。

●委員

可燃ごみ置場に箱の設置をしているという話をされていましたが、私の地域の可燃ごみ置場は、狭い道路にあります。少し大きめのトラックなどが通ると、可燃ごみを踏んでしまうということもありますので、私の地域では、箱を設置しているところはまったくありません。そういった地域は、どうなのでしょう。

●事務局

仮に、プラスチック製容器包装類とペットボトルを袋収集するのであれば、基本的に全部の箇所にカラス除けネットを配布するといった対応は必要だと思います。カラス除けネットで覆うスペースがあれば、実現することはできると思います。

●委員長

今回の会議は、廃棄物減量等推進協議会特別委員会ですので、次回の本協議会では、アンケートの結果について特別委員会でも協議した内容を報告する必要があると思います。事務局としては、事務局が当初に提案していた見直し案は時期尚早だと考え、地域では立ち当番の問題などがあるから、見直し案を進めるのはまだ早いと考える中で、なんとか地域を支援できるようなことをしたいとのことでした。また、皆さんが分別等をしっかりやったださるような理想

的な状態であれば、立ち当番の仕事はそこまで多くないため、例えばパトロールで対応するのはどうか、という話もありました。こういった提案もありましたが、特別委員会の意見として、個別に意見があればお願いします。

●委員

先ほども言いましたが、立ち当番をなくして、パトロールで補うというのは反対です。立ち当番をなくしたら、分別がされなくなること、パトロールの人が分別などの注意をするというのは不可能だと考えるからです。知らない人が来て注意しても喧嘩になるだけです。なぜ、今は喧嘩にならないかという、町内の方が言うから受け入れられています、パトロールしている人が注意したら喧嘩になります。

もう一つ、一部、ごみ出しマナーが悪い人もいて、この前、可燃ごみが所定の場所ではないところに置いてあるのを見ました。他地区から来て、置いていくみたいです。そういったこともあって、立ち当番をしている町内の方は、自分のお住まいの町内の置場に出すように注意します。可燃ごみ置場でも専用の容器を設置しているところがありますが、夜中に出す人がいるそうです。立ち当番をなくして、パトロールするというのは無理な話だと思いました。

それからあともう一つ、アンケート結果にあった、一部地域で先行してやってみて、それを踏まえて全体的なことにしていく、ということはやるべきだと思います。ある民間企業では、新しい商品を作ったときは、期間を決めて地域単位で一度試してみるそうです。そこでうまくいけば、全国的に拡げるそうです。最初からいいものはできないので、まずやってみて、よくなかったら変えていく、やってみてそれで終わりという風にはしないでほしいと思います。

●委員

もともと、市長への要望が非常に多く、市全域で共通の大きな課題にもなっている立ち当番がクローズアップされ、広報に掲載があったように、市議会での答弁でも、廃棄物減量等推進協議会の中で今年度中に一定の方向性を出すということを事務局で決めたのだと思います。先日も、テレビで資源ごみの処理には相当な費用がかかっているということを取り上げており、本当に難しい問題だと思いました。町内会、子ども会、老人会といった地域社会にある組織が崩壊とまではいきませんが、昔のように運営できない状況です。社会情勢の変化により、生活の仕方も変わってきた中で事務局の提案だったと思います。環境課から提案のあったふれあい収集は、障害を持っていたり、社会的に何かと大変な方などに手を差し伸べるという施策で、今後も、対象者の要件を緩和して、多くの方に手を差し伸べる制度をつくるということをお願いいただき、素晴らしいと思いました。今日の資料を読んでも、高齢者や共働きの方がアンケートに回答したかは分かりませんが、ごみを出すうえでの弱者の方たちに対しての提案なのだと思います。江南市は、お金がないから何もできないということを皆さん言いますが、

立ち当番をなしにできないかという事務局の提案については、私も受け入れることは難しいので、人のやさしさに訴えるなどして、立ち当番をできる方が、できない方を助ける地域社会になればいいと思います。

それから、先ほどの区長さんが話していた、可燃ごみ置場の箱ですが、これから先のことを考えると、きちんとした可燃ごみ置場を設けるといことは避けて通れない問題ではないのかと思いました。

●委員

事務局から当初に提案されていた見直し案の、立ち当番の回数を減らして週に1回プラスチック製容器包装類やペットボトルを可燃ごみの収集ルートに乗せるということについては、来年1年間、議論・試行して、早くても再来年の実施という予定だったのではないかと思います。その議論をする前に、事務局から新しくパトロールを行うという提案がありました。この新しい提案は、4月から始めることになるのでしょうか。

●事務局

タイミングが難しいですが、来年度初めからというのは難しいと考えています。繰り返しのようになりますが、完全に立ち当番をなしにしてください、ということではなく、例えば全世帯が対象で無条件に引継ぎがされているようなところがあれば、人数の減少や時間短縮などスリム化をご検討いただけないか、ということから始められないかと思っています。そこで、少しずつ様子を見て、人数を減らした中で、分別の精度が高まってくれば、袋収集にも移行できるのではないかと、という考えはどうでしょうか。

●委員

パトロールの頻度はどのくらいでしょうか。例えば、2時間のごみ出しの中で1回や2回でしょうか。立ち当番はごみ出しの時間はずっといますが、出しに来る人は5～10分くらいで帰ります。そうすると、パトロールのやることは、すでに出されているごみが、きちんと分別されているかということを確認することになります。立ち当番の人は、分別に問題があると思われる場合には声をかけています。この形でいいということであると、どうなのでしょう。それこそ試行的にやってみるのはいいかもしれません。私としては、当初の事務局の提案で、基本的には立ち当番の回数を減らしていくという方向性の中で、試行的に、これをやってみるというのはいいと思います。

●委員長

私個人としては、事務局がいくら分別の啓発をしても徹底はされないと思います。立ち当番

の人が、ある程度ごみを捨てに来た人に啓発することによって伝わっていくと思います。様々な年代の人がいますので、波及効果が結構大きいと思っています。そういった面でも、何人とはいえませんが、立ち当番は必要だと思います。

ごみは最初に分別することがコストが一番安いです。混ぜってしまったものを分けるのは大変ですし、汚れたものも分けるのが大変です。立ち当番はそのための役割と考えています。もう一つ、市からの当初の提案である一部資源ごみの袋収集については、結局、地域の方から、それほどの賛成をいただけなかったから、保留するという事でしょうか。

●委員

この会議の最初の説明を聞き、事務局から提案された立ち当番をしなくていいという話と理解して意見を言ったので、立ち当番をスリム化するという事務局からの補足説明が途中でありましたが、最初にそれも説明されていたら議論は変わってきたのではないかと思います。例えば、私の地域だと、1回の立ち当番で大体20人くらいいて、それを30分くらいずつに振り分けています。それを半分の10人でやるとして、時間は30分ずつとすると、一つの区間で2~3人くらいでやるということです。そういうことであれば、取り組むことはできるのではないかと思います。

●委員

先ほども話しましたが、まず立ち当番の仕事の質をあげる必要があると思います。私の地域は、令和2年度に立ち当番の仕事の内容を整理しました。立ち当番の仕事を減らすことができれば、私の地域では要らないとまで思っています。今日の問題は、立ち当番ができない人から事務局がいろんな意見を聞いてほしいです。また、小牧市と一宮市の担当者に話を聞いてほしいです。私は、1番進んでいるのが一宮市だと思いますが、一宮市の収集体制の弊害があるのかなどを聞いてほしいです。一宮市の社会福祉協議会の件も、なぜそういうものをつくる必要があったのかということです。ペットボトルなどは、1か月も家に保管しておくのが大変なため、みなさんスーパーなどに捨てに行っているそうです。

とりあえず、一宮市の方にどんな弊害があるか聞いてほしいです。当初の案には、私は絶対に反対です。

●委員

今回の結論としては、立ち当番の回数などをスリム化することですが、どこかの地域限定で、可燃ごみ置場にペットボトルとプラスチック製容器包装類の週1回の回収をやってみたらどうですか。やってみて弊害が出れば、またやり方を考えてもいいと思います。何もなくてここで議論しているよりいいと思います。私では、どこの地域がいいかは分かりませんが、

まずどこかでやってみて、いろいろな問題が出てきたということがあれば、少し前進するのかなと思います。立ち当番のスリム化やなくすという話については、私の地域ではおそらくできません。

●事務局

立ち当番を完全になくそうというところからスタートするのではなく、全地域を挙げて、人数の見直しをしてほしいというところからできたらと思っています。できるだけ、それぞれの世帯の状況を配慮する方向にして、そのうえで立ち当番の人数を削減できるのかどうかをやってみて、削減した分をフォローするためにパトロールを派遣するということです。パトロールの内容は、分別の指導ではなくて、後から分別の確認をするという立ち位置で考えたかどうかと考えています。あと、先ほどご意見のあった試験的に袋収集をやってみるということになると、なかなかすぐに対応することが難しいと思います。

●委員

私の地域で袋収集をやってみてもいいですよ。

●事務局

そうすると、袋の準備に課題が出てきます。

●委員

試験的だから、どんな袋でもいいのではないですか。とりあえず、1か月やってみるとかで1年もやるわけではないので、そのためにわざわざ作ることはないと思います。例えば、江南市の可燃ごみ袋に何かシールを貼るとか、他市町の資源ごみ回収袋を借りてもいいと思います。それでやってみて問題点があれば、そこからまた考えればいいと思います。

●事務局

そういった試験的なことをやる価値はあると思いますが、その前段階の、立ち当番の人数をそのまま引き継ぐのではなく、一度見直していただくということについてはどうでしょうか。今回のアンケートで、各地区にはそれなりに立ち当番の問題などは伝わったと思います。これまで立ち当番について、市は介入しないと言いつつ、分別の精度は高めてほしいという考え方でしたが、市が積極的に介入して、人数の見直しをお願いしていくということで一旦まとめたと思います。

●委員長

だいたい意見も出そろいまして、今回の意見も事務局で取りまとめていただいて、次回の協議会に報告していただければと思います。

それでは、議題2のその他について、事務局から何かあればお願いします。

<事務局説明>

●委員

みなさんの意見を聞いていたときに思ったんですが、スーパーは、プラスチック製容器包装類やペットボトルを回収する義務があると思うんですが、やめてしまっているところがあります。私の家の近所のスーパーや新しくできたスーパーは、回収をやっていないです。そのようなスーパーについては、市の方からご指導いただけるものかどうか知りたいです。

●事務局

生産者の責任はあると思いますが、販売者の方が義務になっていたのかどうか、確認する必要があります。

●委員長

廃棄物処理法上の考え方からすると難しいと思います。スーパーは、サービスでそれを行っているかもしれませんが、一般廃棄物の処理責任は法律上、自治体の責任になっておりますので、それを要望するというのは難しいのではないのでしょうか。

●事務局

法律の改正もある中で、拡大生産者責任の考え方になっていると思いますので、そこに小売店などの回収義務が含まれているかということについては、確認をさせていただきます。

●委員長

それでは、これもちまして、廃棄物減量等推進協議会特別委員会を終了させていただきます。長時間のご審議を賜り、ありがとうございます。